

平成29年度 埼玉県学力・学習状況調査 —中学校の結果分析について—

＜○教科の結果についての概要 ☆指導改善のポイント＞

中学校第1学年

【国語】

○全領域で、埼玉県平均正答率とほぼ同様であり、学力の伸びも県と同程度であった。しかし「読むこと」で意味段落に書かれている筆者の意見を読み取ることに課題が見られた。
☆段落同士のつながりなどから文章の構成を理解し、要約したり説明したりする活動を通して、文意や主題をつかむ力を養う。

【数学】

○県正答率をやや下回った。特に、「分数（計算・文章題）」「円の面積」「直方体の容積」「縮図の利用」については、正答率50%未満かつ無解答率10%以上と課題が見られた。
☆分数計算、円の面積、体積と底面積から高さを求めることは確実に習熟させたい。練習量を確保する。縮図から実際の木の高さを求める問題はよく出題される。授業で扱いたい。

中学校第2学年

【国語】

○全領域で、埼玉県平均正答率とほぼ同様であり、学力の伸びも県と同程度であった。しかし、「読むこと」で筆者の主張と対応する具体例を読み取ることに課題があった。
☆文章全体からキーワードとなる語句や文を読み取ることや、必要とされる条件に合わせて内容をまとめることなどの活動を、日頃の授業で意図的に設定する。

【数学】

○県正答率とほぼ同じ。「仮平均」「方程式（文章題）」「扇形の弧の長さ」「反比例の式」「範囲」「資料の読み取り」が、正答率50%未満かつ無解答率10%以上と課題が見られた。
☆仮平均、範囲、扇形の弧の長さ、反比例のグラフから式を求めることは確実に習熟させたい。方程式の文章題も、教科書の例題レベルは確実に解決できるようにさせたい。練習量を確保する。資料から読み取ったことを記述する問題は、授業で扱って慣れさせたい。

【英語】

○埼玉県平均正答率をやや上回る結果であった。しかし、「聞くこと」の領域では県平均正答率をやや下回っており、特に「まとまった英文の内容が理解できる」の問題に課題が見られた。
☆「聞くこと」に関しては、日頃の授業において英語をどれだけ聞けているか、という積み重ねが大切である。実際のコミュニケーションの場面を想定し、まとまりのある英文を聞かせる練習や、外国語指導助手からのインプットを増やす授業改善に取り組んでいく。

中学校第3学年

【国語】

○全領域で、埼玉県平均正答率とほぼ同様であり、学力の伸びも県と同程度であった。「読むこと」で比喩表現から場面描写を読み取ることはよくできていたが、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では漢詩の訓読文や古文の内容理解に課題があった。
☆日常の生活の中で身近に感じられるよう小学校からの系統性を踏まえた工夫をし、音読の繰り返しや暗唱の活動を通して、内容理解とともに古典や漢文に親しむ態度を育てる。

【数学】

○県正答率とほぼ同じ。「2点を通る直線の式」「2直線の交点」「文字式による説明」「三角形の合同の証明」が、正答率50%未満かつ無解答率10%以上と課題が見られた。
☆「2点を通る直線の式」「2直線の交点」は関数分野の基礎基本である。「文字式による説明」「合同の証明」も基本問題はできるようにさせたい。いずれも練習量を確保する。

【英語】

○埼玉県平均正答率とほぼ同様であった。文法問題や会話文の理解において基礎力が定着しつつある。しかし、「書くこと」においては、県の平均正答率を下回っており、課題が見られる。
☆書く能力を伸ばすために、日々の授業において聞く、話すなど他の技能との統合を図り、繰り返し指導を行っていく。